

# 卵画と洞窟画における描画後質問 (PDI) の 作成に関する研究

目白大学人間学部 田中 勝博  
目白大学心理カウンセリングセンター 土田 恭史  
目白大学人間学部 今野 裕之  
目白大学人間学部 丹 明彦  
有明教育芸術短期大学子ども教育学科 赤坂 澄香

## 【要 約】

本研究は、卵画と洞窟画に関する描画後質問 (Post Drawing Interview ; 以下PDI) の試案を作成し、心理臨床への適用について検討した。投影描画法では半構造化されたPDIによる関与が重要である。しかし、PDIの研究はほとんどない現状がある。本研究では、臨床心理士2名の検討によって、物語の筋やプロットの把握ができるような順序構成に配慮して、卵画7項目、洞窟画11項目からなるPDIを作成し、大学生60名を対象に調査を行った。PDI内容の比較検討のため、気分調査票 (8因子40項目) および自己イメージ尺度 (3因子20項目SD法) を実施した。4事例の描画とPDI結果を提示し、その内容を検討した。卵画・洞窟画のPDIにおいて、卵画では身近なイメージ、洞窟画では遠くのイメージに感じる傾向がうかがわれた。洞窟画のPDIの $\chi^2$ 検定の結果、洞窟に住みたいかどうかということと洞窟の広さとの間に有意な偏りが見られ、広い洞窟には住みたくないと言われることが多いことがわかった。本研究において、試案した卵画・洞窟画PDIが、描画だけでは読み取ることができない描画内容について、一定程度、簡便に聴取できることがわかった。また、PDIの意義について、言語的に意味が付与されることで描画内容をより詳しく吟味でき、描画の意味理解を補うものであることを考察した。

キーワード：卵画、洞窟画、半構造化面接、描画後質問、投影描画法

## I 問題と目的

投影描画法は、描画表現行為そのものがクライアントに治療的意義を与える効果をもっているが、クライアントに単に絵を描かせれば良いというものではない。何よりも、描画を媒介にしたクライアントとのコミュニケーションが重要であり、その一つの方法として、半構造化された描画後質問 (Post Drawing Interview ; 以下PDI) がある。PDIとは、描画を媒体にして、治療者がその描画についての問いかけを通してクライアントにかかわることである。その重要性について、田中 (2007) は、“心理診断や心

理療法において用いられる描画法は、臨床家とクライアントの双方が描画表現を通して、相手に問いかけ語りかける相互対話的な関わりである”と指摘し、その問いにお互いに応えていくという二者の関係が心理療法的関係を育むと述べている。同様のことを、高橋 (2007) も、クライアントが自分の描いた絵を治療者と共に眺め話し合うことによってクライアントの洞察が深まることを指摘し、描画を介した話し合いについて、“PDIではなく、描画後の対話：Post Drawing Dialogue (PDD) と呼びたい”と述べている。

PDIによるかわりには、非言語表現であり無意識的な内容の含まれている描画表現が言語化されることによって、描画だけでは把握できなかったクライアントの心理を深く理解するための情報が得られる。クライアントにとっても、自分の描画表現を言語化することにより、自分の今まで気づかなかった問題を意識化するきっかけにつながる場合もあり、それによってクライアントの自己洞察や自己理解も深まると考えられる。

このPDIの効果については、主にHTP法において言及されているものが多い。Buck (1948) は、PDIについて、“描画後質問方式は、被験者の描いた3枚の描画とその各描画の状況に関する彼の意味づけ、解釈、連想が得られるだけでなく、それ以外の投影もできる機会を被験者に与える”と述べており、クライアントがPDIによって自己への気づきを得られる効果について指摘している。またHammer (1953) は、“HTPテストの言語的側面(描画後質問)は人格を表す絵の内容を詳しく説明するための適切な情報を提供する”と述べている。高橋(1974)も“被験者が表現している独特の意味や問題を知るために、きわめて重要な役割をもっている”と論じている。同様に、三上(1995)は、“非言語的・創造的・非構造的な描画と、統覚的・構造的な言語による二つの面から、パーソナリティにアプローチすること”がクライアント理解に有意義であると述べている。しかし、PDIの研究は、近年、新井・田中(2006)や高橋(2007)、天満ら(2008)の研究がみられるぐらいで、本邦ならびに諸外国の描画研究において、描画を媒体にしてその内容を半構造的に聴ききながら関与するPDIの研究はほとんどみられない。

筆者ら(2003, 2008)は、これまで田中(1995)が考案した投影描画法の卵画と洞窟画における描画内容を分析するために、両技法で表現された描画内容のコード化を試み、卵画と洞窟画の印象分析における自己イメージと描画反応との関連などについて研究を行ってきた。また、最近の研究では、投影描画法におけるPDIの研究に取り組んできており、HTP法のPDI短縮版(新井・田中, 2006)および家族画

のPDI(鈴木・田中, 2008)、今と将来法のPDI(藤田・田中, 2010)を作成し、その成果を日本描画テスト・描画療法学会で発表している。本研究では、卵画・洞窟画に関するPDIの試案を作成し、卵画・洞窟画において見られるPDIの反応傾向について、描画表現に対する感情や態度および自己イメージの観点から検討し、試案した卵画・洞窟画のPDIの臨床への適用について検討することを研究目的とする。

## II 方法

### 1 卵画と洞窟画のPDI作成

新井・田中(2006)がBuck(1948)のHTP法のPDIを参考にして作成したPDI短縮版を元に、臨床心理士2名の検討によって、物語の筋やプロットの把握ができるような順序構成に配慮して、卵画7項目、洞窟画11項目からなるPDIを作成した(Table 1)。

### 2 調査

#### (1) 調査対象

都内のA大学に通う大学生60名。対象者60名のうち、有効回答のあった53名(男性18名、女性35名)を対象に分析を行った。対象者の平均年齢は20.96、SD=3.397であった。

#### (2) 調査期間

2009年10月から11月

#### (3) 実施方法

集団法により対象者を2人1組のペアにし、交互にセラピスト役、クライアント役となり卵画・洞窟画を授業時間中に実施した。描画実施前に気分調査票(8因子40項目)、自己イメージ尺度(3因子20項目SD法)を実施したのち、10分間のインターバルとして、描画についての説明をした上で、描画を行った。まず、楢田枠をペアのそれぞれに描かせ、それを相互に交換をさせて、田中(1995)の教示方法に基づいて卵画、洞窟画の順に描画を行うよう教示した。調査は2週にわたって実施し、交互にセラピスト役、クライアント役となり、描画後にはセラピスト役が半構造化面接によるPDIを聴取した。これを2回(卵画・洞窟画)行った。

#### (4) 使用尺度

##### ① 気分調査票

坂野・福井・熊野・堀江・川原・山本・野

Table1 卵画・洞窟画のPDI

#### 卵画PDI

1. あなたが描いたものは何ですか？
2. これは、近くにいる感じ？ それとも遠くにいる感じ？（そう感じる理由は？）
3. これがうまれて一番はじめに出会うものは何（誰）ですか？
4. もしも何（誰）かと出会ったら、いっしょに何をしたいと思いますか？
5. これが必要としているものは何だと思いますか？（その理由は？）
6. これが成長して大きくなったら、どのように変わると思いますか？
7. これを見て、何か思いつくことや思い出すことはありますか？

#### 洞窟画PDI

1. あなたが描いた洞窟はどんな所で、どんなイメージを描いたのですか？
2. この洞窟のなかは、広いですか？深さはどれぐらいですか（奥行き何メートル）？
3. この洞窟には、どんな天候が似合いそうですか？（晴れ、曇りなど）
4. この洞窟に、いま風が吹いているとしたら、どちらから吹いていますか？（右、左、上など）  
風の強さは？（強風、そよ風、など）
5. この洞窟で暮らしてみたいと思いますか？（その理由は？）
6. この洞窟で暮らしはじめたら、まず最初に何をしますか？
7. ここに誰か（もしくは何か）たずねてきますか？ それとも誰も（何も）やってきませんか？
8. もし、誰か（何か）がたずねてきたら、いっしょに何をしますか？
9. この洞窟は印象としてあなたの近くにある感じですか、それとも遠くにある感じですか？
10. 絵のなかで、あなたが1番好きなものはどれですか？ その理由を教えてください。
11. この洞窟の絵から、何か思いつくことや思い出すことはありますか？

村・末松（1994）による。主観的な気分状態を多面的に測定するための尺度で、「緊張と興奮」、「爽快感」、「疲労感」、「抑うつ感」、「不安感」の5因子からなる40項目の尺度である。

#### ② 自己イメージ尺度

田中・土田・今野・丹（2008）にて作成した、25項目からなるSD法による質問紙である。「活動性」、「理知性」、「包容性」の3因子からなる。

#### (5) 倫理的配慮

回答を拒否する権利があること、結果は統計的に処理し研究以外には使用しないこと、希望者には結果のフィードバックをすることなどを事前に教示し、描画の論文掲載の確認も取った。また、結果の管理に十分注意を払うことも伝えた。

## Ⅲ 結果

### 1 卵画・洞窟画PDIの反応出現数と反応間の関連

#### (1) 卵画と洞窟画の身近さについて

卵画および洞窟画のPDIにおいて共通に聞いているものの一つに、描かれたものに対する身近さについて尋ねる項目がある。これは描出した絵を身近なものとしてとらえるかどうかを検討するものである。PDIの中に明確に言及されなかった6件を除いて、卵画・洞窟画それぞれのイメージの遠近についてまとめた。その結果、Fig.1のように、卵画は身近に、洞窟画は遠くに感じる傾向がうかがわれた。これを卵画－洞窟画の遠近を組み合わせ、集計したものがFig.2である。これによると最も多かったのは卵画を身近に感じ、洞窟画を遠くに感じるパターンであった。ついで、両者を共に近いもの、あるいは遠いものとして感じるパターンが同数見られた。最も少なかったのは、卵画を遠くに

感じ、洞窟画を身近に感じるパターンであった (Fig.2)。

### (2) 卵が成長したらどうなるか

卵画に描かれたアイテムが成長してどのようになるかについて訊ねたところ、成長の達成、変化なし、失敗の3つのパターンに大別できた (Fig.3)。もとのPDIに「成長」と言う表現を含んでいるためか、ほとんどの対象者が、何らかの形で卵画のアイテムが大きくなったり、育ったりするとしていた。中には「無機物なので変化しない」など、大きくなって変わらないものもみられた。これらに対して「このように大きくなってほしい」とする願望や、それが達成できなかったとする反応がみられたが、反応としては稀であった。

### (3) 洞窟の大きさ

洞窟の大きさについてはせまい、ひろいの他、どちらとさえない中間的な広さの3つに分

類した。その結果、描かれた洞窟の大きさについては、大きな偏りは見られなかった (Fig.4)。ただし、描画上推察される広さよりも広い、あるいは狭いとするPDI反応も少なからず見られた。

### (4) 天候

洞窟画における、外の世界の天候については、ほとんどが晴れ、ないしはやや雲がかかっているが晴れといった、好天と答えるものが多かった (Fig.5)。曇りや雨、雪といった悪天候はほとんど見られなかった。また、結果にはないが、洞窟の外の天気と中の天気について言及する反応もわずかながら見られた (「外は晴れているが中は曇っている」など)。

### (5) 洞窟に住みたいか

「この洞窟で暮らしてみたいですか」という項目について、「住みたい」と答えたものは26.5%で、全体の3割程度であり、「住みたくない」

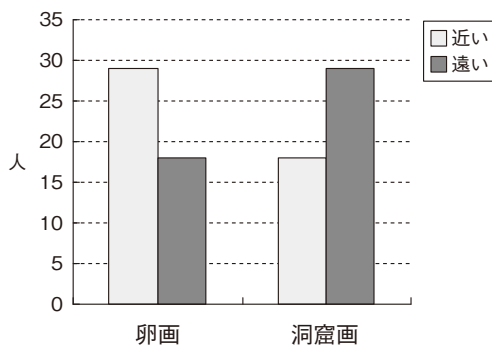


Fig.1 描画イメージの近さの比較

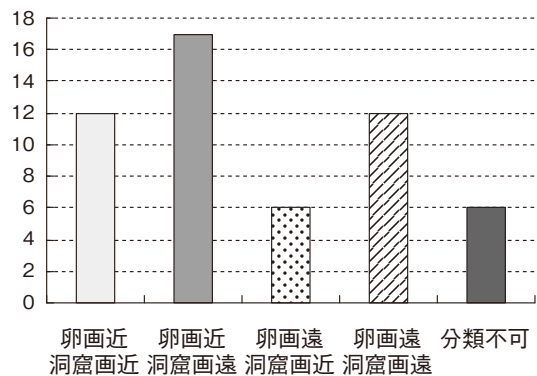


Fig.2 描画に対する遠近の組合わせ

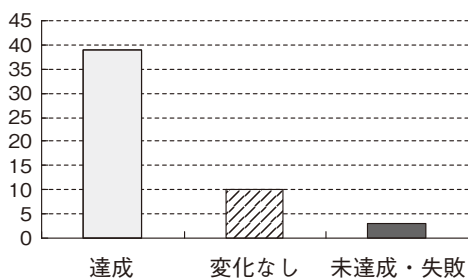


Fig.3 卵の成長

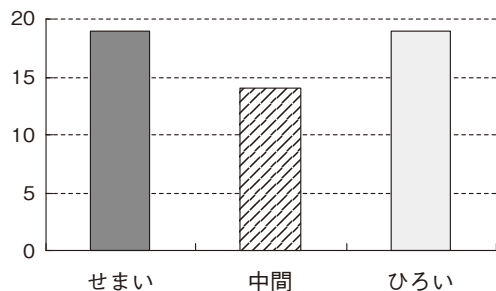


Fig.4 洞窟の広さ

は48.2%であった。「一時滞在」は25.3%で、「行くのはいいが住みたくない」や「しばらくいるのはいいけど、住みたくはない」など、訪問や一時的な滞在をするという反応であった（Fig.6）。

#### (6) 来訪者

洞窟に誰かがたずねてくるかについての項目については、誰かが訪ねてくるとする反応が62%と多かった。ただし、訪ねてくるのは一様ではなく、友達や家族、見知らぬ人や動物などさまざまであり、対象の数も異なっていた

（Fig.7）。

## 2 PDI項目による各尺度の比較

それぞれのPDI項目（卵・洞窟の遠-近、卵の成長、大きさ、天候、洞窟住みたさ、訪ねてくる人の有無）を独立変数とし、自己イメージ、感情状態の各尺度を従属変数とした1元配置分散分析を行ったが、いずれの項目についても、有意な主効果は見られなかった

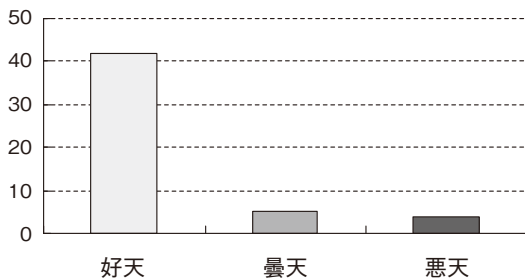


Fig.5 天候（洞窟画）

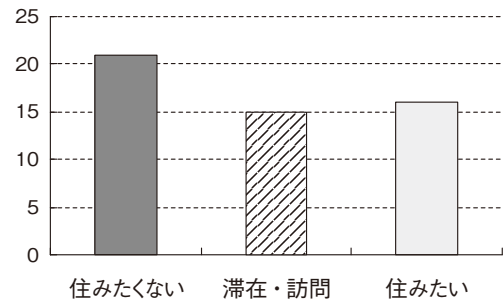


Fig.6 洞窟に住みたいか

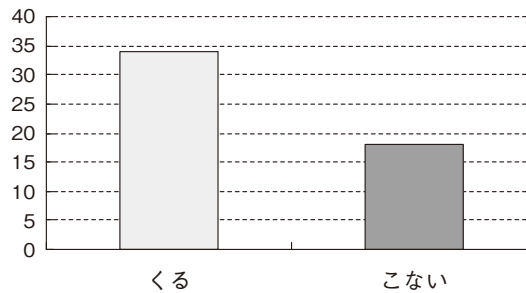


Fig.7 洞窟に訪ねてくる人の有無

### 3 PDI項目の関連について

洞窟画のPDIのうち、洞窟に住みたいかどうかと洞窟のひろさ、天候、たずねて来る人の有無についてクロス集計をし、 $\chi^2$ 検定を行った。その結果、住みたいかどうかと洞窟の大きさの間に有意な偏りが見られ、広い洞窟は住みたくないと言られることが多いことがわかった (Table 2, 3, 4)。

Table 2 住みたい×誰か来ますかのクロス表

		誰かたずねてき すか		合計
		くる	こない	
この洞窟に住 みたい ですか	住みたくない	13	8	21
	滞在・訪問	12	3	15
	住みたい	9	7	16
合計		34	18	52

$\chi^2 = 2.117$  n.s.

Table 3 住みたい×天候のクロス表

		天候			合計
		好天	曇天	悪天	
この洞窟に住 みたい ですか	住みたくない	17	2	2	21
	滞在・訪問	13	2	0	15
	住みたい	12	1	2	15
合計		42	5	4	51

$\chi^2 = 2.220$  n.s.

Table 4 住みたい×洞窟大きさのクロス表

		洞窟の大きさ			合計
		せまい	中間	ひろい	
この洞窟に住 みたい ですか	住みたくない	6	3	12	21
	滞在・訪問	8	6	1	15
	住みたい	5	5	6	16
合計		19	14	19	52

$\chi^2 = 10.06, p < .05$

### 4 事例

投影描画法は、描画表現そのものとそれを媒体にした語りが重要であるので、実際の描画デ

ータとPDIの反応を事例的に提示する。今回は紙面の関係上、4事例の提示を行う。PDIの結果から、描画表現だけではとらえきれないイメージが表現に内在していることがわかった。

#### 4 事例

##### (1) 事例1 21歳女性 (Fig.8)

卵画では、卵の殻から「晴れた昼の世界のお花畑」と「雨の降る夜の世界」が表現された。左側の昼の晴れの世界には、太陽が照り、植物が生い茂り蝶も飛んでいる。一方、右側の夜の雨の世界では、雲から降る雨の空を走る列車と夜空の星とが描かれた。PDIでは、「これは自分の中のなごみ」だと語り、「近いけど、いつでも行けるわけじゃない。トトロみたいな、気持ちしだいで見えなくなるから。見える人の紹介がないと見に来られない。一見さんお断りだ」と説明した。初めて出会うものは、「チケットが当たった人で、その人はまず汽車に乗る」、必要なものは適度な風。「空気が(機関車の煙で)にごりそうだから」だと説明した。また、「この卵が成長すると、ゼンマイも増えて星も増えるなど、世界がより豊かになっていくようだ」とも語った。絵から思いつくことは、「アニメの999の車掌さんと鳥の鳴き声を思い出す」、と豊かな幻想的なイメージの世界を展開した。(Fig.9)

洞窟画では、青い空と大地に開けはなたれたドアが一つだけ立っており、ドアの外側には別の世界が広がっている幻想的な風景が表現された。PDIでは、「この洞窟の中は快適で、外は大地が続いているけど何もない所。洞窟は一軒家の一階分の空間で、4~5区画に分かれている。天気は春っぽい晴れで穏やか。風は中から外、後ろから前に向かってそよ風が吹いており、イメージとしては春の風」だと語った。暮らすことについては、「暮らしてもいい」と語るが、「さっぱりしてるから積極的には住みたくないけど、ドアでどこでもいけるならこざっぱりした住み家としてありかな」とも語った。洞窟の中ですることは「昼寝」。ここやってくるものは、「たまに友達が来る。知らない人も来そう。その人たちとは、ご飯を一緒に食べる。一

緒におどる。みんなが食料を持ってくる」と説明した。イメージとしては近い絵。この絵の好きなのところは、「広大な空。空が好き。視界をさえぎるものがない空が好き」だと語った。絵の感想としては、「食料がないので、卵画の卵がころがりこんできたらいいな」と語った。

#### (2) 事例2 20歳女性 (Fig.10)

卵画は、かわいらしいタッチで、しかし鋭い牙と爪の生えた恐竜が描かれる。恐竜など怪獣のモチーフは、生物反応として出現しやすい反応である。PDIでは、「これは赤ちゃんの恐竜」で、イメージとしては「近くにいる感じ」。初めて出会うのは、「自分（私）で、一緒に散歩をする」と語った。ほほに紅が少しついており、なにやら吠えているかのようなアニメ表現がなされており、赤ちゃんと言うより青春期の年齢相応の自画像表現として受け取れる。必要なものは、「母親で、それは人間の社会に生まれたから。特に赤ちゃんなのでなおさら必要だ」と赤ちゃん恐竜に自己投影して、母親を求めている状態を語った。これが成長したら、「恐怖になります」とコメントした。描画の感想は、「こうしたイメージをするのは、小さい時に見た映画に影響されるのだと思った」と語り、描画表現によって、赤ちゃんイメージと同様に幼い頃の何かをイメージしている様子がうかがえた。(Fig.11)

洞窟画では、調査時期と重なる「クリスマスの雪の夜にサンタがプレゼントを配る様子」が描かれた。PDIでは、「これは寒い頃で、クリスマスのイメージ」だと説明した。洞窟の広さは、「せまくて、1LDKくらいだけど、奥行きは50mくらいある」と語った。外の天気は雪で、風はない。暮らしてみたいかどうか尋ねると、「はい、暗くて狭いのが好き」と答えた。暮らすにあたっては、「一応、洞窟を調べる」。洞窟を訪ねてくるものは、「兄弟で、やってきたら一緒にトランプをする」。イメージとしては「遠くにある」。絵の中で好きな部分は「雪だるま」で、作りたいのが理由だと語った。

#### (3) 事例3 22歳女性 (Fig.12)

卵画では、卵が割られてフライパンで「目玉

焼き」にされる描画が表現された。PDIでは、自分に近いイメージの目玉焼きで、「生まれてすぐフライパンで焼かれる。成長しない卵で、有精卵であれば良かった」と語られた。成長しない無精卵であるゆえに焼かれて食べられてしまうという自己否定的な自己像が表現されていると推測された。(Fig.13)

洞窟画では、生物の一切いない無機的な部屋をのぞき見をしているという抑うつ的な絵が描かれた。また、内側の壁の色も真っ黒に塗られている。通常、洞窟画では風景表現が多いが、これは稀な「閉塞型」の反応といえる。PDIによると、「押入れに開いた小さな穴から部屋を見ている絵で、幅1.5m×奥行き1mの空間」だと説明した。「外は雨で、風はなく」、「気温はぬるい」。この空間は自分に近いイメージで、中はせまくて温かく、「部屋を監視できる」ので住んでいたい。「反対側にいる人がたまに訪ねてくるが、自分は一切かわからない」。「足りないものが何かあるはずだが、それは何かかわからない」と、内閉的な独自の世界を語り、他者との交流は拒否され、世界との交流はのぞき穴から世界を垣間見るだけで、その先には生命のない世界が広がっているさまが鮮明に語られた。

#### (4) 事例4 23歳女性 (Fig.14)

卵画は、絵に慣れたタッチの表現であり、卵の殻をカラフルに彩色し、「残念でした」と言いながら、卵から「ハズレのびっくり箱」が出てくる描画が表現された。PDIでは、「びっくり箱。開けるとびよーん」であり、「イメージとしては近く、開けると驚く（生まれた瞬間、自分が驚く）が、「残念でした」とあって残念な思いになる」、「初めて出会うのは自分で、卵をつついたら生まれた」と語った。生き物ではないので、一緒に何かをすることはない。「これが必要とするものは驚ろかす対象だけけど、一度生まれてしまったので、もう驚かせない。成長することもない」と説明した。そして描画のイメージについて、「クリスマスカラー。欲しくない。ひとにもあげたくない。中心のピエロのイメージを恐くしたかった。表と裏で色が違うリボンがあると良い。卵は大きいけど何か嫌だ。描いているとき、あまり楽しくなかった。同じよう

な卵があっても、もうつかない」と、描かれた明るい描画とは裏腹に自分の描画に対して無価値感や不快感を語り、描画表現によって思わぬ自己イメージに直面し、とまどっている様子がかがわれた。(Fig.15)

洞窟画では、寒色系で空と大地と樹氷だけの寒々しい風景が描かれた。PDIによると、「寒い白夜」の描画であり、「洞窟の広さは6畳くらい。天気は晴れで、風は左から右へと吹いている。風は強めで、吹雪までいかないくらい」と説明した。洞窟で暮らすことについては、「食べ物無く、死にそうだから嫌だ」と語り、「もし暮らすとしたら、火を焚いて、食べ物があったら食べて寝る」とも語った。「洞窟には誰も訪れず、人も寄り付かない」と語り、内閉的な状態を語った。しかし、「暮らしてみると、(親から)“帰れ”と言われると思うけど、景色が見たいから残る」と住みたくはないが親の指示には従わないといった親への両価的な言及をした。イメージとしては、「すごく遠いところにある」と語った。絵の好きな部分は、「空のグラデーション。うまく塗れたから。空を見るのはぼちぼち好き」と語り、人気がなく食べ物もない寂しい自分の描画表現に距離をとりつつも、その寂しい風景に惹かれる思いもあることから、自己に対する両価的な心理の存在が推測できる。

#### IV 考察

##### 1 投影描画法におけるPDI作成の意義

卵画と洞窟画の両技法は、もともと二つの描画を表現をさせるだけでなく、描画後に二つの絵を結びつけて物語作りをするまでの一連の過程がある。昨今、臨床場面において描画とナラティブに言及した研究が多く見られるようになってきているが、心理査定や心理療法において、絵を描かせてその絵の物語を作らせることがナラティブというものではない。むしろ、クライアントの描画表現にどのように関わり、描画を媒体にしてクライアントが何を語り、そしてクライアントと描画体験全体を通して、何をどれくらい共有するのが重要なのである。そのことについて、田中(2006)は、“描画療法は描画を媒介にした対話にほかならない”と述べ、“その描画に秘められているクライアント

の心の声に耳をすまし、その描画表現をクライアントと共に眺め、共に感じるところに、描画療法における治療的コミュニケーションの意義がある”と指摘している。

実際の心理臨床場面において卵画・洞窟画技法を用いる場合、両技法の描画表現だけを実施し、物語を作る時間がないこともよくある。それは、心理臨床場面が絵を描かせその物語を作らせるだけで、クライアントの話を聴くための時間を割かずに、クライアントを帰すわけにはいかない場合が多いからである。やはり、どのような描画法を用いる臨床場面においても、クライアントの話を受けとめる時間配分はどうしても必要になる。あるいは、心理療法の初期段階の治療関係が熟していない場合において、描画表現までは可能であっても、描画を用いた物語作りや描画表現に対する説明などの言語化が困難な事例もある。また、治療経験の浅い臨床家の場合、クライアントに一方通行的に描画から物語作りをさせるよりも、PDIを用いることによってクライアントに関与した方が治療関係を構築しやすい場合が多いのではなかろうか。

天満ら(2008)は、高橋(1974)が“PDIは一定の質問をする必要はなく、描かれた絵にあわせてPDIを実施していけばよい”と指摘していることを受けて、“各描画テストにあわせて特定のPDIはないと考えられる”と指摘している。筆者らも、天満らの見解には異論がない。確かに、投影描画法の関与にとり重要なことは、クライアントの描画体験過程そのものに対する治療者の「臨機応変な態度」があげられる(田中,2001)。また、高橋(1974)の言うように“描かれた絵に合わせてPDIを実施”することが望ましいのだが、初心者の心理臨床家の場合、それがなかなかできにくのが現状だと思われる。

今まで、筆者らがさまざまな投影描画法のPDI作成を考案してきたのは、上述した初心者の心理臨床家にとって臨機応変な態度での関与が難しいことに加えて、心理臨床家とクライアントの両者にとって、負担の少ない描画を媒介にした関与方法の目安として、投影描画法には半構造化されたPDIの関与が望ましいと考えたからである。



## 2 卵画と洞窟画のPDIについて

今回、卵画と洞窟画のPDI試案を作成し、卵画・洞窟画の描画表現に対するPDIからどのような内容が得られるかについて調査を行った結果、今までの卵画・洞窟画の物語作りによる事例研究や両技法の描画反応のコーディングの研究からは把握できなかった両技法における描画内容を把握することができた。本研究において試案した卵画・洞窟画PDIにより、描出された描画表現だけでは理解できない意味が絵のなかに内在しており、PDIに対して語られる内容は、絵に描かれていない内容が付与されることが認められる。このPDIを一定の半構造的な枠組みにおいて聞くことによって、語りの内容を比較検討することが可能になると考えられる。また、今回試案したPDIの特徴は、描画との距離や関係、イメージの温かさ、自己イメージなど、描画からだけでは読み取りにくい意味を簡便に聞き取ることができる点だといえる。

卵画PDIの特徴として、描画表現が身近なイメージとして語られやすく、成長変化を問う質問内容が含まれているため、「小さな怪獣が大人しい親切的な怪獣になって、海を越えて未知の旅へ出かけてゆく」というような未来志向的なモチーフや成長のモチーフが語られる傾向が認められる。また、卵画PDIでは、初めて出会う対象が描画者自身である場合が多く、その瞬間の自己像を色濃く投影されているように思われる。

一方、洞窟画PDIでは、自分よりも遠くのイメージとして感じる傾向が大きく、天候、風向き、寒暖、距離、住みやすさ、他者との交流など、描画表現を補う語りの内容が得られると共に、描画者が抱いている内的世界が投影されやすいと考えられる。描画表現における天候について、Buck (1948) は、“多くの被験者がこの質問に対する答で、自分たちの一般的な環境が援助的で親和的であるのか、それとも圧迫的で敵対的であるのかといった感情を天気の状態で表明したとしても別に驚くことではない”と述べており、同様にCathy (1990) も、児童臨床では、描画表現のなかの天候状態が子どもの心の状態をあらわすことを指摘している。今回の洞窟画の天候が晴天の多かったことは、健常

な青年期の大学生が被験者であったためであろう。また、洞窟の広さは、広いもの、中間、狭いものは同程度であったが、 $\chi^2$ 検定の結果において、住みたいかどうかと洞窟の大きさとの関係において、広い洞窟には住みたくないと言われることが多かった。中井 (1995) は、HTP法の家の描画について、「住まうものとしての身体」の自己像を表すのではないかという仮説を出し、「身体の住み心地の善し悪し」によって示される自己像と病理との関係について示唆している。洞窟画の住み心地感はあまり広い方が望ましいという結果から、個人が安心して「住まうものとしての自己イメージ」を抱ける空間はほどよい狭さが望ましく、それはPDIで「住まうイメージ」を求められることによって、描画者が自分を暖かく包みこむような安心感のもてるイメージを洞窟空間に求めているからではないかと考えられる。

また事例では、調査対象が青年期の大学生であったこともあり、空想的で幻想的なテーマや依存と独立のテーマ、他者との交流に悩む内閉状態のテーマや孤独感、自己受容への両価的テーマなど、青年期特有のいくつかのテーマが表現されている。特に、PDIによって、卵画と洞窟画のそれぞれの描画表現にはひとつの物語が含まれていることが理解できる。そのことは、描画に含まれている物語について、PDIがひとつの物語における筋やプロット (story line) の流れを聞くように、描画者のPDIの語りが聞けるPDI構成になっていることが必要である。本PDIは、物語プロット把握のためのPDIの順序構成について検討して作成されており、事例の結果をみると、まだ十分とは言えないが、臨床応用が可能ではないかと思われる。

今まで述べてきたことより、PDIの意義は、一見するとそうだとわからない描画の意味について、言語的に意味が付与されることで描画内容をより詳しく吟味することができ、描画の意味理解を補うものであるといえる。このことは、高橋 (2007) も、“クライアントの描いた絵をより深く理解するためには、絵の目隠し分析による解釈ではなく、PDIが大切である”と指摘し、総合的な描画理解のためにはPDIが必要だと述べている。

### 3 卵画と洞窟画のPDIの心理臨床場面への応用に向けて

本研究において、卵画・洞窟画PDIの試案は、描画だけでは読み取ることができにくい描画内容について、一定程度、簡便に聴取できることがわかった。心理臨床場面において、物語を作る時間がない、あるいは物語をたずねることや自由に物語を作ることが困難な場合において、本PDIを用いることで、描画のもつ意味について理解を深めることができるものと考えられる。

しかし、本PDIを実際の心理臨床場面で用いるにあたっては、上述した臨機応変な態度が望まれる。たとえば、試案したPDI項目の全てを実施するのではなく、クライアントの状態によっては、聞くべきでない項目や必要のない項目については質問から除外すべきであろう。また、本PDI項目に含まれていない内容を聞く必要性やPDIに対する言語反応について掘り下げて聞かねばならない場合もあることに注意を払わなければならないだろう。

本研究は、調査人数が限られていることに加えて、調査対象者が健康な青年期の大学生であり、治療者-クライアント役を心理臨床家ではない彼らが行っているため、事例からも推測できるように、心理臨床の実際場面ならばもっと掘り下げて聞かねばならない情報が得られていない。その意味では、本PDIはまだ試案段階のものだといえる。

今後の課題として、卵画・洞窟画PDIの反応と他の心理尺度の関連を調査するなど、より一層の妥当性の検討が必要だと考えられる。また、PDIのパターンと物語の関連性やPDI実施が描画者の描画体験やその物語におよぼす影響についても検討し、より精度の高いPDIとなるよう検討を重ねていく必要がある。特に、本研究は対一場面での模擬面接の形を取っているが、基本的には集団場面での調査研究である。今後の大きな課題として、個別法による質的な研究によるPDIの効果研究に加えて、実際の心理臨床場面において本PDIをどのように使用していくかを慎重に検証していくことが重要だと思われる。

付記 本研究は平成21年度の目白大学特別研究費の助成を受けて行われた。

### 謝辞

本研究の調査に協力してくれた本学心理カウンセリング学科の絵画療法の講座を受講した学生諸君に感謝する。また、描画反応の取り込みおよびデータ入力に協力してくれた本学心理学研究科臨床心理学専攻修士課程の三浦志乃さん、貝沢智くん、栗原八弥さんの各位に心より感謝したい。特に、英文要約の校閲を賜りましたロサンジェルスで個人開業されているアートセラピストの高田円先生ならびに独立行政法人国立成育医療研究センター・こころの診療部の水島栄先生に深く感謝します。

### 【引用文献】

- 新井智幸・田中勝博（2006）. HTP法における Post Drawing Interrogationに関する研究 日本描画テスト・描画療法学会第16回大会抄録集, 46
- Buck, J. N. (1948). The H-T-P Technique — A Qualitative and Quantitative Scoring Manual. Journal of Clinical Psychology, Monograph Supplement,5, Brandon, Vermont. (バック, J. N. 加藤孝正・荻野恒一（訳）（1982） HTP診断法 新曜社)
- Cathy, M. (1990). Breaking the Silence : Art therapy with children from violent homes. New York : Brunner/Mazel (キャシー・マルキオディ 角山富雄・田中勝博（監訳）（2002）. 被虐待児のアートセラピー —絵から聞こえる子どもの声— 金剛出版)
- 藤田彩恵子・田中勝博（2010）. 「今と将来」法の個別導入による探索的研究 日本描画テスト・描画療法学会第20回大会抄録集, 49
- Hammer, E.(1953). The role of the H-T-P in the prognostic battery Journal of Clinical Psychology, 9, 371-374.
- 三上直子（1995）. S-HTP法—統合型HTP法の臨床的・発達のアプローチ 誠信書房
- 中井久夫（1995）. 家族の深淵：重層体としての身体 みすず書房
- 坂野雄二・福井和美・熊野宏昭・堀江はるみ・川原健資・山本晴義・野村 忍・末松弘行（1994）. 新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の

- 検討 心身医学, 34, 629-636
- 鈴木澄香・田中勝博 (2006). DAFにおける描画特徴に関する研究—Porotの家族が分析方法およびPDI分析を用いて— 日本描画テスト・描画療法学会第18回大会抄録集, 34
- 高橋雅春 (1974). 描画テスト入門—HTPテスト 文教書院
- 高橋依子 (2007). 描画テストのPDIによるパーソナリティの理解—PDIからPDDへ 臨床描画研究, 22, 85-98.
- 田中勝博 (1995). 卵画と洞窟画—臨床描画における楕円枠空間の研究— (第1報). 臨床描画研究 X: 151-168
- 田中勝博 (2001). 芸術療法と表現病理: 非行を対象としたスクウィグル 臨床精神医学2001年増刊号, 135-143 アークメディア
- 田中勝博・今野裕之・小佐野綾 (2003). 卵画と洞窟画の基礎研究 (1)—楕円枠線画刺激による描画促進に関する研究— 目白大学人間社会学部紀要, 3, 77-96
- 田中勝博 (2006). ナラティブと心理療法—描画とナラティブ—絵が語るもの臨床心理学, 6, 101-106
- 田中勝博 (2007). 心理療法における道連れとしての描画法—描画療法における渾然一体化について 臨床描画研究, 22, 2-11.
- 田中勝博・土田恭史・今野裕之・丹 明彦 (2008). 卵画と洞窟画における印象分析に関する研究—自己印象評定および自己イメージとの関連から— 目白大学心理学研究紀要, 4, 49-61
- 天満弥生・石田弓・内海千種 (2008). 人物画テスト2枚法の臨床的有用性の検討—自己理解を促す「描画後の質問」の考案— 徳島大学総合科学部人間科学研究, 16, 145-163

### 【図表一覧】

- Table1 卵画・洞窟画のPDI
- FIG.1 描画イメージの近さの比較
- FIG.2 描画に対する遠近の組み合わせ
- FIG.3 卵の成長
- FIG.4 洞窟の広さ
- FIG.5 天候 (洞窟画)
- FIG.6 洞窟に住みたいか
- FIG.7 洞窟を訪ねてくる人の有無
- Table 2 住みたい×誰か来ますかのクロス表
- Table 3 住みたい×天候のクロス表
- Table 4 住みたい×洞窟大きさのクロス表
- Fig.8 卵画「昼と夜のなごみの世界」(近いイメージ)
- Fig.9 洞窟画「大空と大地にある異界へ通じる扉」(近い-住みたいイメージ)
- Fig.10 卵画「恐竜の赤ちゃん」(近い-依存と独立イメージ)
- Fig.11 洞窟画「雪の降るクリスマスの夜とサンタ」(遠い-住みたいイメージ)
- Fig.12 卵画「目玉焼き」(近い-成長しないイメージ)
- Fig.13 洞窟画「押入にあいた穴から見える部屋」(近い-住みたいイメージ)
- Fig.14 卵画「ハズレのびっくり箱」(近い-成長しないイメージ)
- Fig.15 洞窟画「寒い白夜に立つ樹氷」(遠い-住みたくないイメージ)

— 2011. 9. 28 受稿, 2011. 10. 26 受理 —

## Research of trial production on Post Drawing Interview (PDI) of egg drawing technique & cave drawing technique

Masahiro Tanaka	Mejiro University, Faculty of Human Sciences
Takashi Tsuchida	Mejiro University, Psychological Counseling Center
Hiroyuki Konno	Mejiro University, Faculty of Human Sciences
Akihiko Tan	Mejiro University, Faculty of Human Sciences
Sumika Akasaka	Ariake Junior College of Education and the Arts, department of childhood education

Mejiro Journal of Psychology, 2012 vol.8

### **【Abstract】**

This study draws conclusions from the semi-structured Post Drawing Interview (PDI) research for projective drawing techniques : Egg Drawing and Cave Drawing Technique. A survey on 60 University students was conducted using a trial production PDI with 7 questions on the Egg Drawing Techniques and 11 questions on the Cave Drawing Techniques. As a result of this study, it was indicated that while participants generally felt close to the image of the egg drawing, the cave image was distant. In addition, the results of the PDI from the cave drawings suggested that there was a strong correlation between the size of the cave and how pleasant or comfortable it felt to the individual. The larger the cave, the more hesitancy existed for an individual to see the cave as a viable dwelling. Developing this trial PDI allowed researchers to read the drawing as a story, with greater possibilities for applications in clinical psychological practices..

**keywords** : egg drawing technique, cave drawing technique, semi-structured interview, Post Drawing Interview (PDI), projective drawing technique

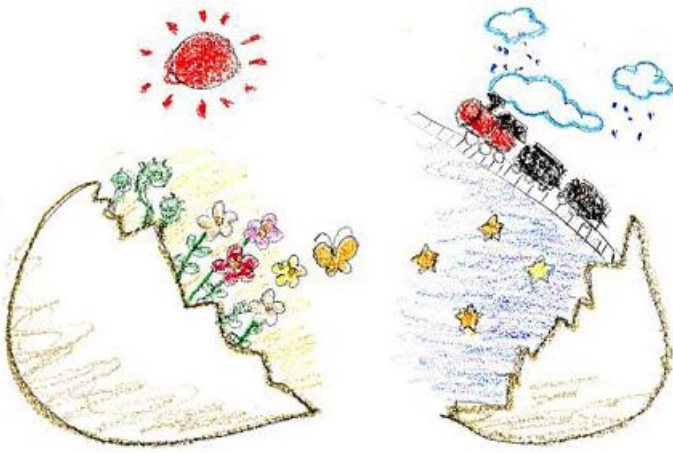


Fig.8 卵画「昼と夜のなごみの世界」(近いイメージ)



Fig.9 洞窟画「大地にある異界へ通じる扉」(近い-住みたいイメージ)



Fig.10 卵画「恐竜の赤ちゃん」(近いイメージ)



Fig.11 洞窟画「雪の降るクリスマスの夜とサンタ」(遠い-住みたいイメージ)



Fig.12 卵画「目玉焼き」(近い-成長しないイメージ)

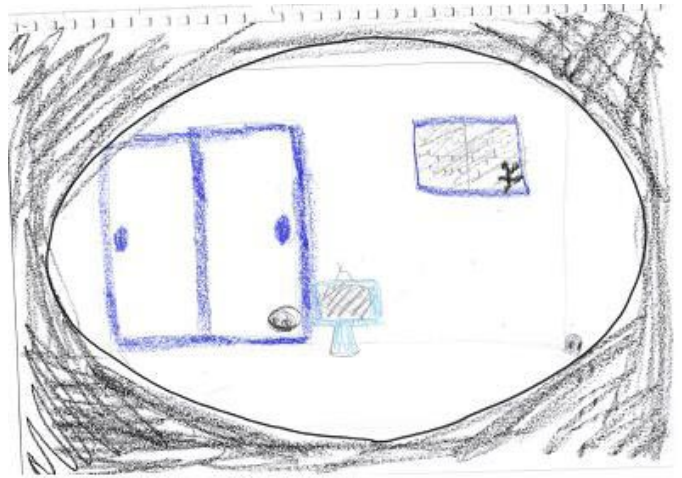


Fig.13 洞窟画「押入にあいた穴から見える部屋」  
(近い-住みたいイメージ)

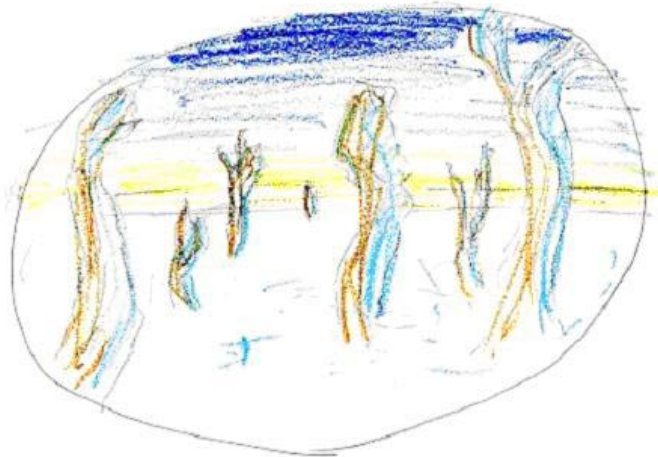


Fig.15 洞窟画「寒い白夜に立つ樹氷」(遠い-住みたくないイメージ)

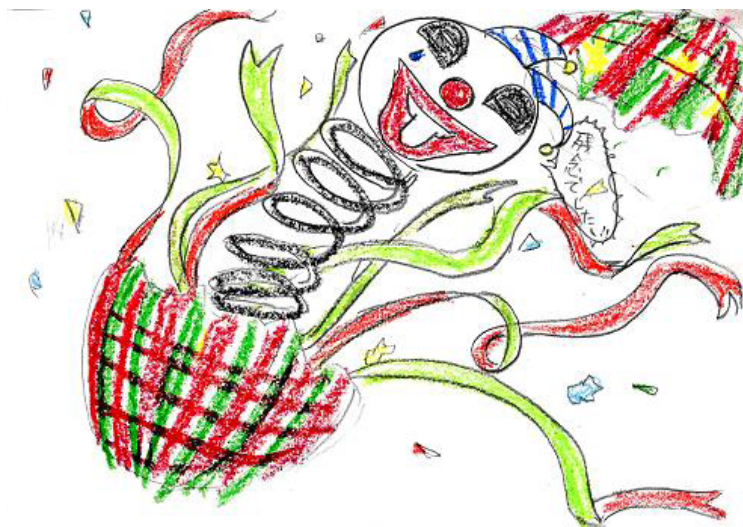


Fig.14 卵画「ハズレのびっくり箱」(成長しないイメージ)